こどもニュース2024

記事の担当記者　つづきJr.　みなとみらいMM Jr.

横浜トリエンナーレ

横浜トリエンナーレ（横トリと略）とは横浜で開催される現代アートの展覧会です。今回は８回目となり、2024年３月15日から６月９日まで開催されました。

●ペーパーランプイベント「野草の灯」

会場のアメリカ山公園の芝生の上に、8色のペーパーランプ7000個で地上絵が描かれました。地上絵のデザインを担当したのは、アーティストのさとうりささんです。横トリのテーマにそった、野鳥のカワセミと野草の花が表現されていました。私たちはキャンドルをセッティングし、火を灯す体験もしました。準備からたくさんのアーティストやボランティアの方達の力が加わって、作品が完成していました。キャンドルのあたたかい灯りが、さまざまな色を灯して、とてもきれいでした。

●横浜クリエイティブCOOP

BankART KAIKO内の「横浜クリエイティブCOOP」に出店するアーティストにインタビューしました。橋村至星さんは、東日本大震災の直後、お店に人がいなくなり、棚にも食品が少なくなった経験から身近にある食べ物、主に野菜や果物の絵を描き、その絵を名刺や服、カップなどにプリントをした作品を作っています。深沢アート研究所カブさんはジャマイカでホームステイし、薬草を使った薬を作るアフリカの漢方に近いことを学びました。その経験から、その土地ごとの植物でお茶などを作成したり、現地の写真と関連のある絵などをコラージュしたカードを制作しています。

●よこはまミーティングドーム2004－2024

自分のシルエットをかたどった「アバター（分身）」とともにアーティストの作品やメッセージが集まったドームをみんなで作るプロジェクトが、横浜市役所1Fアトリウムで横浜創造都市20周年イベントとして開かれました。磯崎道佳さんに教えてもらい、自分の形をカラフルなビニールに切り取り、ドームにはり付けるワークショップに参加しました。

●「BankART Life 7」

矢内原充志さんにお話をうかがいました。今回の作品は、友達やネコが亡くなり、下を向いて横浜のまちを歩いていて撮った写真をパターンにして布をつくり、洋服をつくりました。また、いままでたくさん洋服を作ってきて、余ってしまって捨てるのがもったいない生地を新しい形にリサイクルして、新しく洋服にした作品を展示していました。

黄金町バザール2024

京急線日ノ出町駅・黄金町駅間の高架下スタジオと、その周辺で行われた黄金町バザール2024。そこには作品を生み出した人たちの想いがありました。気球のようなさとうりささんの青いバルーンの作品、書道家のハシグチリンタロウさんの作品、そして、物ができて、こわれて、新しい物ができて、こわれて…このくり返しの本間純さんの作品。その作品は約70個のパーツになりました。高橋ビルの屋上にあったアートは、宮城県石巻市の日和山にある階段を再現した井上修志さんの作品です。このアートは東日本大震災で、復興のあかしとして作られ、階段は希望をあらわしています。作品の中の古いテレビに2011年の被災地の映像がながれていました。（横井悠斗）

かずささんの碗琴道という、茶碗や湯呑をならべ、音を鳴らし、しまい、立ち去るまでの一連の動作「箱点前」を作法に則ったパフォーマンスを見ました。いろんな大きさのお茶碗をたたいて演奏する碗琴道は、美しい音色で飽きることがなく、とても心が落ち着きました。（馬場航平）

安部泰輔さんは、古着などをミシンで縫い、ぬいぐるみをここで毎日作っていました。横浜トリ公式グッズ「ヨコトリ」をはじめとした様々なキャラクターが会場中に広がっていて、森のようでした。どれもかわいくて思わず買ってみたくなっちゃいました。（青木帆高）

横浜ビー・コルセアーズ

2024年4月に建てかえ工事を経て開業した横浜BUNTAI。取材した日は横浜ビー・コルセアーズのレギュラーシーズンホーム最終戦でした。試合が始まると、プロのバスケ選手のゲームは展開が早く、目が離せませんでした。ふつうは、入ることはできない控室から試合を見ることができて、興奮が覚めませんでした。試合後には、横浜ビー・コルセアーズの9番・杉浦佑成選手に取材しました。

実際に会うと、とても身長が高く迫力があり、緊張しましたが、質問に答えてもらうとその緊張感は杉浦選手への尊敬に変わっていきました。この日の試合で杉浦選手は何本もシュートをきめていて、見ていてかっこよかったです。「バスケで上手くなるには楽しむことが大事」、そして「目標をもって自分から動くことが必要」と教えてくれました。（山本未來・細野由衣斗）

あらゆる「測る」で社会に貢献する「小野測器」

横浜市緑区にある「小野測器」はその社名の通り、「測る」ための機械を開発、生産し、正確に計ることでモノづくりをする会社の製品に貢献している会社です。

実際に測定に使っている実験室を体験しました。無響室はその名の通り全く音が響きません。この部屋は、全方位にグラスウールという吸音材がしきつめられています。構造の工夫で音の反射を減らし、測定したいものがどんな音の特性をもっているかを正確に測定できる部屋です。残響室はすべての壁が厚いコンクリートでできていて音が何重にも反射し、手をたたいたり、声を出したりすると残響が響きわたりなかなか消えません。この部屋では吸音材などのテストを行えます。家を建てるための材料などが、どのくらい音を遮断できるかなども実験できます。

小野測器は、高い技術力と独自の取り組みで測定装置を開発し、私たちの生活を支えるモノづくりに貢献している、縁の下の力持ちのような存在だと感じました。

横浜市防災センター

横浜市防災センターには三つの役割があります。「災害時にどのような対応をすればよいか知らない人に教えること」「地震など災害が起こったときの対応」「テロなどの事件が起きたときの対応」です。センターには、災害時どのような対応をすればよいのかわかる施設がたくさんあります。特に興味深かったのは、火事や地震が起きたらどうするのかを体験できる一軒家のモデルでした。体験して、いざという時どうすればよいのかがよくわかりました。消火器の使い方について、教えてくれる施設がありました。大きなモニターにフライパンから火が出ている映像が流れ、消火器を正しく使うと火が消せる仕組みになっています。実際に火を消すことで、体感的に覚えられるのでとてもわかりやすかったです。火事や地震が起きたとき、どう行動すればよいかわからなくて不安だ、という人はぜひ横浜市防災センターにいってみましょう。（青木帆高）

横浜市会議事堂

横浜市庁舎の一部、船の形ににた建物が横浜市会議事堂です。市民から選ばれた市会議員が横浜に関するいろいろなことを議論し、決めるところです。傍聴席には216人入れ、記者席もありました。赤ちゃん連れでも傍聴できる、遮音された親子傍聴席もあります。議員さんが集まって話し合う本会議場にも入らせてもらいました。大きなモニターがあり、結論や議題が分かるようになっています。席は議員の名前の札を立てると、出席されていることがモニターに表示され、「賛成」「反対」のボタンで投票ができます。実際に席にすわり、投票体験をさせてもらいました。市会のようすはだれでも傍聴でき、インターネットでも見ることができます。横浜をよくするために議論が行われている市会に、みなさんも注目してください。

JA横浜「ハマッ子」直売所センター北店

ＪＡ（農協）は、農家さんによりそい、よりよい地域作りをすることが仕事です。ＪＡ横浜「ハマッ子」直売所センター北店では地元都筑区で取れた野菜や果物を販売しています。組合員の農家さんが朝早く収穫した野菜や果物を朝10時までの間に直売所に届けます。スーパーマーケットなどでは市場から仕入れるためお店に並ぶまでに時間がかかりますが、直売所では農家さんが直接届けてくれるので新鮮さが違います。横浜産のお肉やお菓子もありますが、JA横浜のおすすめはヨコハマブランドの「浜なし」「浜ぶどう」「浜柿」です。横浜市内で収穫されたブランドフルーツで人気があり、スーパーにはなかなか出回りません。センター北店ではソフトクリームを売っていて、３階では料理教室「クッキングサロンハマッ子」も開催されます。

美濃屋あられ製造本舗

「美濃屋あられ製造本舗」は1929年に磯子で始業し、現在95年目で小森社長さんは四代目です。塩やしょうゆ味のあられは工場が始まった時からあり、昔から守り続けている味です。最初は日本で全部を作っていましたが、1973年に台湾に工場を作りました。「美濃屋あられ製造本舗」の工場で味付けを行い、包装を行なっています。美味しそうなあられや地域の歴史や特色あるあられが、直売されていました。一番人気はピー柿、柿の種だということです。昔からの味や新しい味があるので、みなさんにもぜひ食べていただきたいです。（犬飼結花）

小森社長さんに聞きました。新商品の開発は、お客さんの要望や、おもしろいなと思ったことから研究することが多いそうです。また、依頼があり、佃煮屋さんでにつまって仕方なく捨ててしまうのがもったいない「佃煮」や、味がおいしい「魚醤」などの味の柿の種を開発したこともあります。小森さんのおすすめは「横濱ビア柿」と「横浜ナポリタンあられ」です。工場直売所ではお得に買うことができます。私はお土産にチョコレートがかかっているあられを買いました。（加藤美海）

横浜市都市整備局地域まちづくり課

横浜市市役所地域まちづくり課で、横浜のまちづくりについてお話を聞きました。たとえばみなとみらいのまちを開発するときには、まちのイメージをゾーンで分けて、まちづくりに関するルールをつくりました。ビルの高さ規制や、色の基準などが決められています。都筑区の港北ニュータウンも緑を残すまちづくりをしてきました。横浜市民自身が「まちをよくしたい」や「まちの問題を解決したい」などの想いを提案し、その審査に受かると、最大500万円の助成金をうけとり、まちづくりの整備ができる「ヨコハマ市民まち普請事業」についても聞きました。地域まちづくり課のみなさんは「市民が少し活動するだけでもまちが変わる」と話していました。まち普請のプロジェクトは、横浜にとって、よいことにつながるんだと思いました。

都筑郵便局

都筑郵便局を取材し、区内の郵便物の流れについてお話しをうかがいました。都筑区内には14の郵便局があり、その中で配達業務を行っているのは都筑郵便局のみです。1日に配達する手紙の数は一番多い日で約15万通あります。配達担当社員数は140名で1人1日1000通も配達しています。区内には117の郵便ポストがあり、収集も大切な業務です。取材で、手紙などにブラックライトをあてるとバーコードが出てくるしくみを見せてもらいました。郵便物に消印を押す機械は1秒間に11通の消印を押していると知り、びっくりしました。郵便局の仕事は、奥が深く、郵便局サービスは、生活になくてはならない大事なものばかりでした。

西区地域子育て支援拠点「スマイル・ポート」

地域子育て支援拠点とは、０才から学校に通う前の子どもたちが、親子一緒に自由に遊べるところです。スマイル・ポートは、びあアリーナのとなりの建物の3階にあります。親子いっしょに遊べる広場や、気軽にできる相談など、7つの機能があります。ウェブサイトには、実施しているプログラムやカレンダーなどの情報がのっています。取材に行った日は、小さな子どもが遊ぶにはちょうどよいくらいの広さで、施設がきれいでよくできているので、赤ちゃんが遊ぶにはとてもよさそうです。（キムジョアンナ）

スマイル・ポートは朝9時半から午後3時半まで開いていて、1日に30組から50組の利用があります。予約なしでも来ることができます。昼ごはんを持ってきてここで食べることもできます。取材した日はパパも来ていました。また、初めて来たという人もいました。お誕生日だとみんなで歌ってお祝いもしてくれるそうです。スマイル・ポートは、子どもにも大人にも、細かく気づかいしているところがすごいと思いました。（長谷山翔）

ジュニア編集局ホームページから、くわしい記事と最新情報も見てね！

つづき Jr.

みなとみらい（MM）Jr.